



## CLIMB® プログラムの開催について

小児科

CLIMB®プログラムはがんの親を持つ子どもたちのためのグループワークとしてアメリカのThe children's Treehouse FoundationとProf. Sue P.Heiney(サウスカロライナ大学看護学教授)が共同開発しました。日本ではNPO-Hope Treeが2010年に日本版を作成し、2012年からファシリテーター講座を開始しました。

現在、当院を含め15病院で開催されており、当院では2019年から始めました。このプログラムは子どもの親の病気に関連するストレスに対処していくための能力を高めることを目指しています。

4~6回のセッションを同じメンバーで行い、うれしい、悲しい、混乱、怒りなどの感情とがんについて、それに関連する工作や医療行為を通じて学びます。医療行為を学ぶときは患者さんの人形を作りそれに点滴をすることをしたり、怒りの感情の勉強の時は怒りを自分でコントロールするための方法を考え、それをサイコロの面に作ったりします。なかなか自分からは話せない子どもも、手を動かして何かを作ることによって、多くの話ができるようになっていきます。学校や友達には話せない親の病気のことも、ここでなら安心して話せる場になっています。

子どもの会とは別に親の会も開催しました。初めて会う方々でしたが、“子ども”がキーワードで初回から話が盛り上がり、自分のこと、病気のことへと話題が広がっていたようです。今後も引き続き開催していく予定です。開催時期や詳細については、がん患者家族サポートセンターにお問い合わせください。

問合せ先 TEL:0853-20-2518

## 島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

10月15日~11月14日

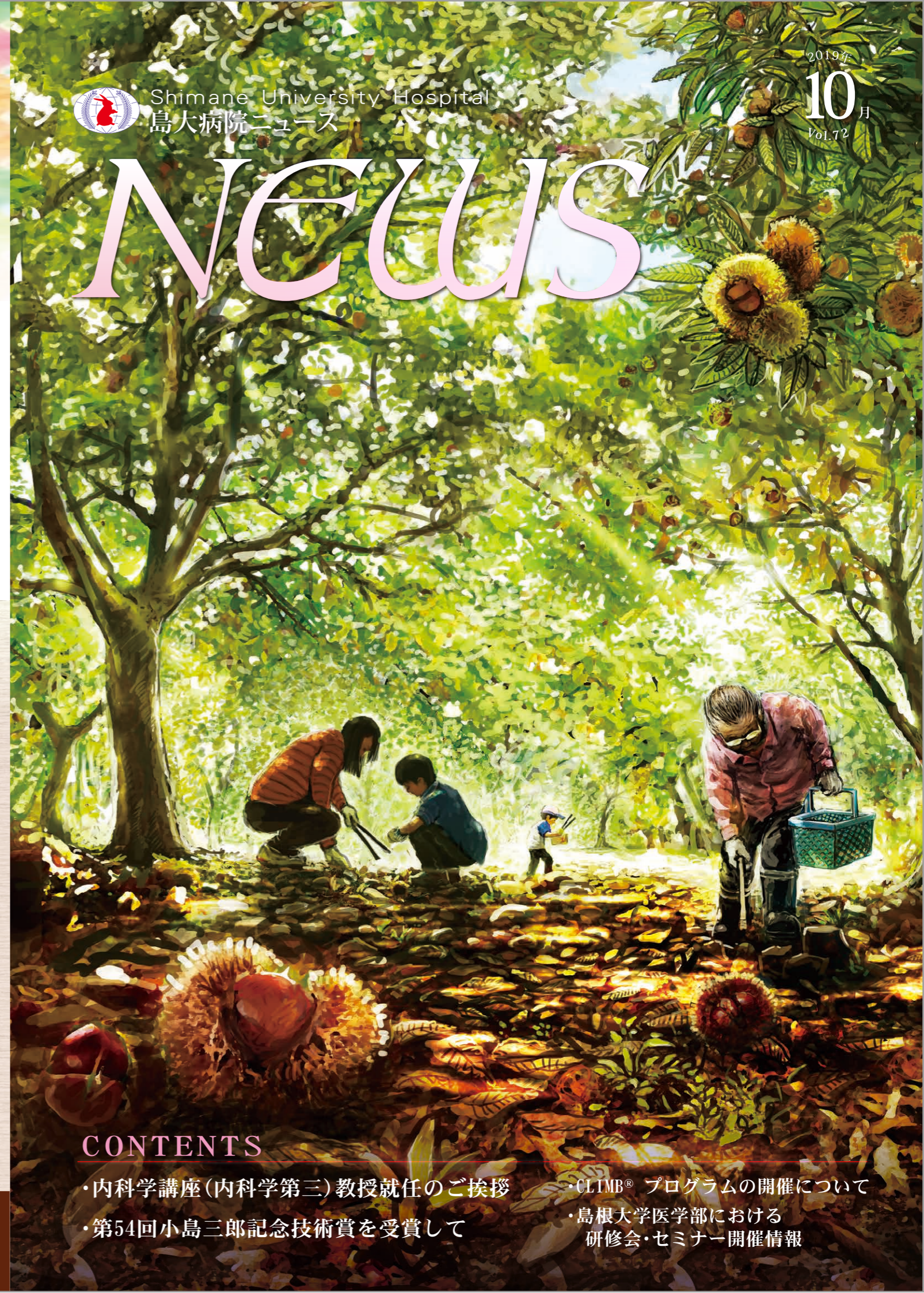
対象者: 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
10/15(火) 9:30~11:30	2019年度 島根県がんピアサポーター相談会	外来中央診療棟3階 がん患者・家族サポートセンター	一般	島根大学医学部附属病院
10/17(木) 18:00~18:45	緩和ケアセミナー 「がん患者の心理・社会面のサポート」～呼吸器症状編～ 島根大学医学部附属病院 緩和ケアセンター 講師 橋本 龍也 島根大学医学部附属病院 緩和ケアセンター 看護師 打田 絵里世 島根大学医学部附属病院 薬剤部 薬剤師 土井 教雄	C病棟5階 カンファレンス	医療	島根大学医学部附属病院 緩和ケアセンター
10/17(木) 18:30~19:30	2019年度 臨床研究・統計セミナー「研究組織、研究資金、利益相反」 島根大学医学部附属病院 臨床研究センター 教授 大野 智	講義棟3階 L3 講義室	医療 本学	島根大学医学部附属病院 臨床研究センター
10/19(土) 10:20~13:00	第29回島根県がん登録研修会 「肝がんの診断と治療について」 島根県立中央病院 肝臓内科部長 三宅 達也 先生	★島根県立中央病院3階 会議室1	医療	・島根県がん診療ネットワーク協議会がん登録部会実務担当者研究会 ・島根県立中央病院 ・町立奥出雲病院 ・島根県健康福祉部健康推進課 ・島根大学医学部附属病院
10/19(土) 13:00~15:00	令和元年度 島根大学医学部ホームカミングデー 「子どもと家族が幸せに暮らせる小児医療を目指して」 島根大学医学部小児科学講座 教授 竹谷 健 「地域医療を支える～奥出雲町での25年～」 奥出雲町立病院 院長 鈴木 賢二 先生	看護学科棟1階 N11講義室	一般 本学	島根大学医学部同窓会
10/22(火) 9:00~15:00	第9回島根メディカルラリー・こどもラリー	★島根県消防学校	医療 本学 一般	島根メディカル-実行委員会
10/26(土) 9:30~15:30	令和元年度 出雲NST研修会 ～チーム連携の輪を広げよう～	ゼブラ棟2階 だんだん	医療	島根大学医学部附属病院 栄養サポートセンター
10/30(水) 14:00~15:00	2019年度 臨床研究・統計セミナー「研究組織、研究資金、利益相反」 島根大学医学部附属病院 臨床研究センター 教授 大野 智	講義棟3階 L3 講義室	医療 本学	島根大学医学部附属病院 臨床研究センター

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



# NEWS



## CONTENTS

- ・内科学講座(内科学第三)教授就任のご挨拶
- ・第54回小島三郎記念技術賞を受賞して

- ・CLIMB® プログラムの開催について
- ・島根大学医学部における  
研修会・セミナー開催情報



## 内科学講座(内科学第三) 教授就任のご挨拶

内科学講座 教授 ながい あつし  
長井 篤

この度、2019年9月1日付けで内科学講座(内科学第三)の教授を拝命いたしました。当教室では、講座の立ち上げ当初より、脳神経内科、膠原病内科、血液内科において、鳥根県内の関連医療機関の先生方と連携を取りながら、高度先進医療と地域医療に貢献できるよう診療を進めてきており、これからも先生方のご意見を頂きながら発展させていきたいと思っています。

私の専門領域は脳神経内科ですが、診療において多領域の神経疾患を専門的にカバーして地域医療に貢献する必要性を感じています。また、高齢化社会の進む中、脳卒中、認知症、難病診療の重要性が増しており、昨年制定された脳卒中・循環器病対策基本法に基づいた脳卒中急性期医療の充実や、認知症疾患医療センターを中心とした県内医療連携、村川准教授を中心とした難病総合治療センター整備などが急務と考えます。

医師臨床研修制度が変遷し、専門医取得や研究のあり方も時代に対応していく必要があります。研究と診断・治療の実用化の障壁が低くなっており、鳥根県内の関連病院で貢献している教室員と共同で効率良い基礎・臨床研究を行うことが可能です。研修医の時代から診療とともに研究にも軸足の置ける人材を育成していきたいと思えます。

諸先生のご要望をお聞きしながら、人材育成を通して、鳥根県全体の医療に貢献できるよう、教室員で一致団結して努力して参ります。お気付きの点などありましたら何卒お知らせ頂きますようお願いいたします。



## 第54回小島三郎記念技術賞を受賞して

検査部 臨床検査技師長 みしま せいじ  
三島 清司

この度、井川幹夫病院長のご推薦により公益財団法人黒住医学研究振興財団「第54回小島三郎記念技術賞」を受賞いたしました。授賞式は6月14日に東京會館本館にて執り行われました。

小島三郎記念技術賞は、国立予防衛生研究所(現在の国立感染症研究所)元所長である故小島三郎博士のご遺徳を永く記念すべく、1965(昭和40)年に創設され、臨床・衛生検査領域において優れた検査方法・術式の考案改良を行ない、検査技術の普及発展に功績のあった実務(技術)者に授与される賞であります。臨床検査技師が受賞する賞としては歴史が長く名誉ある賞とされています。

授賞理由は「血液検査の効率的な運用方法の確立と標準化の推進」です。私が臨床検査技師となった頃は、臨床検査の現場に様々な検査機器が導入されるようになって間もない時期でした。増え続ける沢山の検査機器を限られた人員で効率的に運用するにはどうすべきかが課題でありました。そこで、複数の検査機器を市販の搬送ラインで繋ぎ検体を自動搬送する血液検査システムを全国に先駆けて構築しました。この時は複数の検査機器を搬送ラインで繋ぐことが主な目的でありましたが、その後コンピューター技術のめざましい発展に伴い、大容量のデータを容易に取り扱うことができるようになりましたので、近年は単に検査機器を繋ぐということではなく、検査機器から出てくる検査結果を集約し、より付加価値の高い情報として診療科へ提供するシステムの構築に努めてきました。

これらと並行して臨床検査技師会や関連学会では、より質の高い検査結果を患者さんへ提供するために、どこの施設で測定しても同じ検査結果が得られるための標準化作業といつでも正確な検査結果を出せるようにするための精度向上に関する活動に携わってきました。今回の受賞は地味で道のりの長い標準化や精度向上活動に光を当てていただいたものと大変嬉しく思っています。血液検査の標準化は道半ばでありますし、精度向上は終わりのない活動であります。今後も微力ながらライフワークとして取り組んでいきます。

この度の受賞は、本院検査部や技師会、学会で長年ご指導いただいた多くの先生方やご協力いただいた同僚・後輩の皆様のお蔭と深く感謝しております。

今回の受賞を糧により一層自己研鑽に努め、臨床検査の発展と人材の育成に努力をしていく所存です。今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます、受賞の報告とさせていただきます。





# ご報告



## 当院における脳死下臓器提供につきまして

院内臓器移植コーディネーター むろのい ともひろ  
Acute Care Surgery講座 室野井 智博

2019年8月24日に貴い御意志のもと、当院にて脳死下臓器提供が行われました(本邦624例目)。2019年8月23日に低酸素性脳症の40歳代の男性が脳死と判定され臓器提供の運びとなりました。

摘出臓器は、心臓、両肺、両腎、肝臓、脾臓に及び、心臓は千葉大学医学部附属病院(30歳代男性)、右肺は福岡大学病院(50歳代男性)、左肺は東北大学病院(50歳代男性)、肝臓・腎臓は京都大学医学部附属病院(20歳代女性・肝腎同時移植)、肝臓は熊本大学病院(40歳代女性・分割肝)、脾臓・腎臓は九州大学病院(40歳代男性・同時移植)に臓器提供され、移植手術も無事終了致しました。

2010年の臓器移植法改正により、生後12週以上の小児においても臓器提供が可能となり本人の意志が不明な場合においても、家族の承諾による臓器提供が可能となりました。この改正により、臓器提供は増加しましたが、心臓、肝臓、腎臓などの移植を希望される患者数は13,366人(2017年のデータ)あり、心臓移植が必要な患者数は年間700~1,000人、肝臓においては、年間約2,200人が移植を必要とするとされております。

移植医療は「人が人を助けたいと思う気持ち」で成り立っています。

我々、院内移植コーディネーターは人が人を助けたいと思うその貴い御意志を、確実に臓器移植を希望される方に届けるために、更なる院内の体制整備を図って参ります。



# ご報告

毎回好評! 本院の最新治療や、医学の最新の知見を紹介!

## 松江市民フォーラム

### 「島根大学病院の最新治療」2019秋を開催!

9月8日(日)松江テルサ テルサホールで、松江市で7回目の開催となる市民フォーラムを開催しました。松江ではすでにおなじみとなり、「毎回参加しています」との声も聞かれるようになりました。

前回から、広い会場を確保し、ゆったりとした空間と見やすい大きなスクリーンで、講演を聞いていただいています。今回は約200名の方の参加があり、それぞれの講師が紹介する最新治療や、最新の知見について興味深く聴講され、会場が笑いに包まれる場面もありました。



質疑応答の様子

参加者の感想には、「最新の医療について知ることができ、勉強になりました。今後病気になった時の参考になりました。島大病院を身近に感じることができました。次回も参加したいと思います。」「面白かったです。島大医学部の取り組み、頑張りが分かりました。」など、大変うれしいお言葉をいただきました。

当院が、全県の皆様の『安心の砦』となることを願って、これからも医学・医療が身近になる、楽しいフォーラムをお届けします。

#### 講演内容

#### 「島根大学病院で行っている最新の脳神経外科治療」



脳神経外科 教授  
秋山 恭彦

#### 「da Vinci直腸手術ははじめました」 (ダ・ヴィンチ:手術支援ロボット)



消化器外科 助教  
山本 徹

#### 「がんに関心健康食品は本当か?」 正確な健康情報の見極め方



臨床研究センター 教授  
大野 智





# ご報告



B病棟 5階

学長インタビュー

診療系作業部会



施設見学・救命救急センター出入口附近

卒後臨床研修センター

検査部

## ISO14001 (環境マネジメントシステム)の定期審査を受審しました

EMS対応委員会 委員長 こだま たつお  
児玉 達夫

島根大学では、環境に関する国際標準規格であるISO14001の認証を、2006年3月に松江キャンパスで取得し、2008年3月に出雲キャンパスを含めた拡大認証を取得しました。2012年以降は出雲キャンパス単独で認証を更新し、5月にはISO14001/2015の規格要求事項に適合していると認められました。学内組織としてEMS対応委員会を設置し、環境教育・環境研究、エネルギー、生活系、実験系、診療系の各作業部会に分かれ、目的・目標を設定し計画を立て、活動に取り組んでいます。さらに、当院内で取り組んでいる医療安全や感染対策などの業務と環境管理活動をリンクして行い、安心安全な医療環境の確立や感染性廃棄物の適切な管理を行っています。

昨年度の定期審査に引き続き、去る8月28日～8月30日に認証機関（JQA：一般財団法人日本品質保証機構）による定期審査を受審したところ、5件がグッドポイントとして評価されました。そのうち、附属病院の取り組み2件について紹介します。

1つ目は、検査部において関係部署と連携して採血管の使用期限内使用に取り組み、購入数量の適正化を推進したことで検査制度の向上、経費節減、省資源に繋がっていること、2つ目は診療支援施設である入退院管理センターでは入院中の患者さんの転倒防止対策として院内で使用するはきものの情報を入院前に提供していることや地域医療連携センターでは退院後の支援方法について継続して患者さんに提供していることで、患者さんを含めた関係者の満足度向上と環境を含めた社会負荷の低減に繋がる取組が確認できたことが評価されました。そのほか、改善の機会3件を外部審査員より指摘頂きましたので、今後の活動の推進に活かしていきます。



# ご報告

## スチューデント・ドクター認定証授与式を開催しました

7月31日(水)、出雲キャンパス臨床大講堂において、スチューデント・ドクター認定証授与式を挙行了しました。

スチューデント・ドクターとは、医療現場において診療参加型臨床実習を行うことができる水準の知識・技術・態度を身に付けた学生に対して、全国病院長医学部長会議より発行される資格です。今年度は医学科5年生106名が、全国の医学生が受験する共用試験に合格、そして大学における所定授業科目を修得し、スチューデント・ドクターに認定されました。



式では、並河徹医学部長より代表者に認定通知書が授与され、その後全員が、自身の氏名と並んで“Student doctor”の称号が印字された認定証を受け取りました。

既に医学部附属病院での実習に入っている彼らですが、今秋には県下約40の診療所・病院における地域医療実習も始まります。学生であると同時に医療人として、スチューデント・ドクターには一層の使命感・責任感の自覚と成長が求められています。

この日の授与式は、医師となる決意を新たにする機会となりました。





# ご報告

## 専門看護師・認定看護師等による 退院後訪問を始めています

看護部長 たなか まなみ  
田中 真美

当院では、患者さんの高齢化とともに医療処置を継続したまま自宅退院となる医療依存度が高い患者さんが増加しています。また、2018年の診療報酬改定により、専門性の高い看護師が訪問看護ステーションや医療機関等の看護師と連携し患者宅に同行訪問することが診療報酬上「在宅患者訪問看護・指導料」として評価されることになりました。

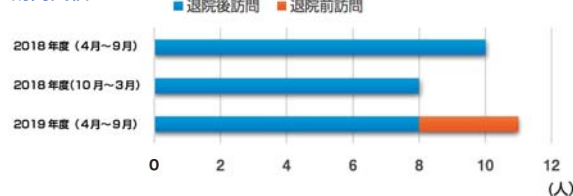
2018年度より地域包括ケアシステムの実現にむけて入院中から患者さんの退院後の生活を見据え自施設と地域との連携を図り、在宅療養支援の取り組みを開始しました。

当院では、特定の看護分野で活躍している専門性の高いがん専門看護師1名、認定看護師(13分野)22名が在籍しています。退院患者さんに対して専門・認定看護師、入院病棟看護職等が、訪問看護ステーションの看護師、保健師と一緒に自宅へ訪問する「退院後訪問」を始めました。再発や増悪のリスク軽減、在院日数の短縮にもつながり、患者、ご家族にとって在宅での療養を安心して継続できると考え2018年度には、18人の患者さんに退院後訪問を行いました。入院中にかかわった専門・認定看護師に加え病棟・外来の看護師や助産師が在宅主治医・訪問看護師等と連携を図り自宅に訪問することで、患者さんからは、「退院前から自宅に来てもらうことができ安心して帰ることができた」、「床ずれが、なかなか治らなかった原因を改善してもらい、その後床ずれが治った」等の声がありました。

今年度も引き続き退院後訪問を行っていますが、医療依存度の高い患者さんには、安心して退院できる療養環境を整えることが必要であると感じ、現在はケースによって「退院前訪問」も行っています。

今後も院内の看護にとどまらず、急性期病院としてさらに自施設と地域との連携を図り患者さん、ご家族の安心と看護の質を保証したケアの継続を行い在宅療養支援に積極的に取り組んでいきます。

訪問実績



# ご報告



(ダ・ヴィンチ:手術支援ロボット)

## da Vinci 直腸がん手術について

消化器・総合外科学 助教 やまもと てつ  
山本 徹

2019年1月より島根大学消化器・総合外科大腸疾患外科グループでは、da Vinci (ダ・ヴィンチ:手術支援ロボット)を用いた直腸がん手術を導入しました。

ダ・ヴィンチでは、手術アームと呼ばれる術者の手の代わりにする器具が忠実に術者の動きを再現することで安全で高精度の手術を行うことができます。直腸は骨盤の中にはまっている臓器なので、ロボット手術の利点が生かされるという特徴があります。

我が国では、2018年4月からロボット支援手術の保険適用が拡大し、直腸がんに対しても手術を行うことができるようになりました。しかしながら、保険診療で行うには施設基準をクリアする必要があり、10例以上のロボット支援下直腸がん手術を行う必要があります。

施設基準を満たすまでは保険での運用ができませんので、患者さんの自己負担となってしまいますが、当院では病院が患者さんの代わりに全額負担することで対応しています。こうした取り組みにより、現在までに8名の患者さんに行うことができました。術後の経過も良好で当グループ一同、ロボット支援手術のメリットを活かすことができていると確信しています。あと2名の患者さんに手術を施行することで保険適用となり、従来の手術と同じ負担額で手術を行うことができます。

島根県では、現在のところ当院のみがロボット支援下直腸がん手術を行うことができますので、適応の方がおられましたら、ぜひ島根大学消化器・総合外科外来にご紹介ください。

問合せ先 TEL:0853-20-2384





# ご報告



## 新人看護職員リフレッシュ宿泊研修

看護部 教育専任看護師長 みなり リエ  
三成 理絵

新人看護職員も入職して半年となりました。職場環境にも慣れ、徐々に実践できる看護の幅も広がっていますが、同時に任せられる業務も増え不安や緊張は続いています。そこで、職場を離れリラックスした雰囲気の中で新人同士の親睦を図り、仲間意識を深めることを目的に、9月8日、9日の1泊2日で、国立三瓶青少年交流の家にて、新人看護職員リフレッシュ宿泊研修を行いました。

2日間とも天候に恵まれ、9月とは思えぬ夏空のもと活動を行うことができました。1日目は自然とふれあう野外散策、2日目はSAP (sanbe adventure program 人間関係トレーニング) や、バウムクーヘンづくり(炭で火をおこし竹に生地を繰り返し塗って焼きあげる)を行いました。初日の夜は交流会を開催し、ゲームなどで楽しく盛り上がりました。

2日間の宿泊研修をとおして、人間関係を構築する上で大切なことも多く学び、みんなでアイデアを出しチームで協力しあうことの大切さ、相手のことを考えて動くことの大切さ、コミュニケーションの大切さを学ぶことができました。何より、同期との交流が図れ、絆も強まったことで、今後仕事をする上での活力になったのではないかと思います。



**新人看護師の声**

普段とは違う環境で話したことのなかった人とも交流でき良い仲間をつくる機会となり良かったです。

お互いが声を掛け合って協力しあうことの大切さを学ぶことができました。

みんなで力を合わせて作ったバウムクーヘンはとてもおいしかったです。

仲間意識を持って何事にも協力して取り組む意識を持つことを学んだ。



# ご報告

## 出雲市民公開講座について

先端がん治療センター センター長 すずみや じゅんじ  
鈴宮 淳司

“いっしょに考えましょうがん医療”というテーマで、市民公開講座を平成18年から開催させていただいています。「令和時代のがん診療」というタイトルで、2019年9月8日に島根県立中央病院と共同で出雲市の後援をいただき開催し、130名を超える方々に参加いただきました。

今年の市民公開講座の大きな特徴は先端がん治療センターの若いスタッフを中心となって企画しました。今年も出雲市長と島根県立中央病院院長からの挨拶をいただきました。

第一部は肺がんに対する最新の手術、日本でも数少ない眼腫瘍を専門とする医師から眼腫瘍の最先端の治療などの講演、第二部は、“がんの親を持つ子どもたちに寄り添って～こどもにどう話しますか”という市民公開講座で初めての話題であったので高い関心をいただきました。

退院後の在宅での生活への支援に関する話、乳がんについて検診から治療法までの包括的な話、そして、マスコミにも話題の新しい治療方法“白血病/リンパ腫における最新治療:キメラ抗原受容体(CAR)改変T細胞療法”の講演がありました。

最新の治療の話だけでなく、がん患者・ご家族の希望が少しでもかなえられるような取り組みを紹介し、がんになっても安心して暮らせる社会をつくれるように、市民の方々だけでなく様々な職種の方々と考えて取り組んでいくための県立中央病院と一緒に開催する市民公開講座です。次回も2020年9月にビックハート出雲で開催予定ですので、多数の皆様のご来場をお待ちしております。

令和元年 がんに関する市民公開講座

いっしょに考えましょう **がん医療** 入場無料

日時 令和元年 9月8日(日)  
13:00~16:00 (開場12:30)

会場 ビックハート出雲 白のホール

テーマ **令和時代のがん診療**

- 1 肺がんに対する胸腔鏡下手術と腫瘍遺伝子検査
- 2 希少がんと眼腫瘍
- 3 がん患者・家族へのサポート
- 4 知ってきたい乳がんのこと - 自分と腫瘍を守るために -
- 5 白血病/リンパ腫における最新治療:キメラ抗原受容体(CAR)改変T細胞療法

主催: 島根県立中央病院、島根がん治療センター、島根県立中央病院、島根県立中央病院、島根県立中央病院、島根県立中央病院

TEL: 0853-20-2308  
TEL: 0853-30-6432





島大病院ニュース 2019年10月

# ご報告

## 機能温存を目指したバセドウ病手術

耳鼻咽喉科診療科長 教授 かわうち ひでゆき  
川内 秀之  
耳鼻咽喉科副診療科長 准教授 あおい のりあき  
青井 典明

バセドウ病は甲状腺からのホルモンが過剰になる病気で、動悸・多汗・体重減少・疲労感・手の震え・息切れなどの症状がでます。一般に抗甲状腺薬による治療が行われますが、ときに白血球減少、肝機能障害、薬疹などの重大な副作用をきたすことがあります。抗甲状腺薬で副作用をきたした方、抗甲状腺薬でもホルモンのコントロールが不十分な方、抗甲状腺薬以外の治療を希望の方には、内分泌代謝内科、放射線治療科、耳鼻咽喉科で検討のうえ、放射性ヨウ素を使ったアイントープ療法や手術療法を行っています。

バセドウ病手術には傷以外にもいくつか合併症があります。その一つが副甲状腺の機能低下です。甲状腺の裏側には副甲状腺という米粒ほどの小さな組織が4つあり、血中のカルシウムを調整しています。甲状腺を全摘すると副甲状腺の血流がなくなり、血中のカルシウムが下がるため、生涯カルシウムの内服が必要となります。また甲状腺のうしろには声帯を動かす神経(反回神経)があり損傷すると声がかすれる場合があります。バセドウ病手術を行う場合甲状腺に行く血流を遮断し、かつ副甲状腺に行く血流を温存することで副甲状腺機能を温存してきました(準全摘術)が、この手術は一般の甲状腺全摘と比較し出血が多いこと、反回神経が見えない場合も多く術後声帯麻痺による嚥食のリスクがあることが問題でした。

2019年より術中神経モニタリングシステムを導入し、高周波手術装置を併用することで、①甲状腺からの微細な出血をなくし確実な副甲状腺温存を行うことができ、②見えない反回神経に近づくともアラームが鳴ることで反回神経の障害を減らすことができるようになりました。より安全、確実に、QOL(生活の質)が維持できる治療を提供していきます。(なお、これらのシステムはバセドウ病手術のみでなく、甲状腺悪性腫瘍手術、耳下腺腫瘍手術でも使用しています。)



### 術中神経モニタリングシステムと高周波手術装置の併用により

- ①術後副甲状腺機能低下による低カルシウム血症のリスクが下がる
  - ・術後カルシウムの点滴、内服が不要
  - ・早めに退院できる
- ②反回神経の損傷のリスクが下がる
  - ・術後声がかすれる可能性が減る

### 術中神経モニタリングシステム

手術中に①専用プローブを用いて反回神経の走行を確認することができ、②反回神経近傍に手術操作が及ぶときにアラームが鳴ります。

ご報告

2019年10月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2019年10月

# お知らせ

## 涙道外来を開設しました

眼科医師 まなべ かおる  
真鍋 薫

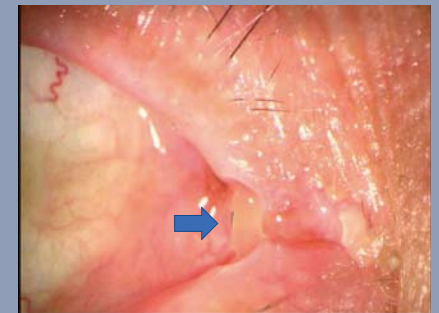
当科では本年の4月より涙道外来が開設されました。「涙道」とは、目頭にある涙点から鼻や喉に繋がる涙の通り道のことです。涙が止まらないという方の中には、涙道が詰まっていたり、狭くなっている方がおられます。涙道が詰まっていると、涙管内で細菌が増え、感染を起してしまうことがあります。そんな方は涙道内視鏡という先端が1mmもないほど細い内視鏡を用いて、涙道内を観察し、涙道の詰まっている場所を穿破したり、涙道にチューブを通したりして、涙の通り道を開通させます。挿入するチューブはシリコン製で、挿入後2か月で抜去します。本年度からは、外部から招へいた涙道専門医の指導も得ながら、外来で涙道内視鏡検査、チューブ挿入の処置ができるようになりました。

流涙や眼脂は、軽い症状と思われがちですがQOLを著しく下げ、悩んでおられる患者さんは多くおられます。これまで、20人ほどに治療を行い、症状が改善したことで非常に喜んで頂いています。

まだ開設したばかりの外来のため、日程や人数に制限がありますが、今後は更に多くの患者さんに対応できるよう体制を整えていく予定です。島根県内の眼科医療の発展のため今後も努力して参ります。



涙道内視鏡



チューブ挿入術後

お知らせ

2019年10月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>

